

AMUSEMENT SQUARE stage

最近の高校演劇を観て思うこと、それは、その人々の情熱が足りないこと。私の偏見であるかもしれないが、多くの人はきつとどのように感じているのではないだろうか。別に、それぞれの考え方があり、そうなのかもしれない。

先日もある高校生とそのようなことについて話をした。その時彼女らは「そんなことはありません(情熱・思い入れ不足について一生懸命やっています)。」

もしそうなのであれば彼女らに一体何が足りないのでしょうか。ある機会があり、彼女らの演劇を観てきた。

確実に何か足りない。二カ月にもわたる練習を積み重ねてこんなものなのかと思つたほどだ。二カ月間もの練習期間中、一体何をやってたのか。別に彼女らを批判している訳ではない。

しかし、去年と今年の彼女らの演劇を観る限り成長したところは目立って見受けられる。その理由はそれぞれの演劇部により変わるものだと思う。しかし、変化がない、ということは、周りの人々からの影響をまるで取り入れていない。基礎はできている。なのに自ら発達しようとしていない。

少しそれるが、赤ん坊について考えていく。赤ん坊は生まれた瞬間に泣く事を覚えている。そして周りを取り囲む大人子供の普段の生活をくまなく研究している。

だ。その生活態度には部分的に遺伝子も関わるが、大幅に環境で変わる。「狼に育てられた人間の子供」のアマラとカマラを思い出せば解るだろう。

そのように周りからの影響を受け、人間は成長していく。

せっかく高校という集団の中にいて、演劇部という塊の中にいて、それを観る機会、観る機会があるのだからもっとその人それぞれの物を自分なりに取り込んで欲しい。

自分の環境を詳しく学ぶ方法は幾つでもある。例えばバスに乗っていたとして、あの人は寝ているとか、あの人はお金を握り締めているとか、それを深く追求すると、握り締めている理由とかを考えた、あの人は外を見て、歩いている人と眼を合わせているとかの、いろんな人がしている動作を追求する。学校にいたつてもそうである。授業態度の観察やら、授業をサポートしたいと受けている理由など、全て言うに限がない。

私が作り上げた劇団はそういう応用性の水準を上げて行きたいという願いを込めたものだ。ここで学んでいけること、ここでしか学べないこととかいろいろあると思

う。できるだけ多くをここから学んでいってもらいたい。

それから、与えられた役を生まれた時点から研究して行く。どのように成長し、小中学校時代を過ごし、どれくらいのレベルの高校に入つたとか沢山の事を考えていく。これはちよつと別の話だが、ある人の受け売りで、考えるまでならいいけど悩まない。理由は自分たちで考えて欲しい。

私の演劇観から言える「育つ」の理念は自ら学んで行くこと。それは演劇などに限らず、普段の生活にも言えることである。

どうぞ皆さん、屁理屈な私とそれを支えてくれている人々で構成された劇団鉄狼をよろしくお願ひ致します。

私が作りたいもの
楽しいもの
哀しいもの
嬉しいもの
むかつくもの
忙しいもの
そんな普段のこと
その人間のそれまでに歩んだ人生
沢山の経験
その芝居に客が入り込めるもの
新しいもの
古いもの
みんなに観てもらいたい
最高のもの
観たことないもの

劇団鉄狼

育つとは……

〈文〉劇団鉄狼代表・渡部由依子

8月のFriday Amusement Negative Shop

番組変更の場合もありますので、内容についてはデーリー東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

劇団鉄狼 旗揚げ4週公演 (7・14・21・28日)

～嗚呼、哀しきかな、高等学校生～
このクソ暑い中、ご多忙の毎日とは存じ上げますが、ぜひ多くの方に御参加戴きたい。
偶には息抜きも必要で御座候。ちよいといらして下さりあんぜ。
其の際にはなるべく、差し入れを御持参のほど、よろしくお願ひ致しまして御座候(半強制)←冗談です。
毎日、蒸されながらも練習に励むので、どうか皆さん私たちのコレクションを御観覧頂ければ幸いです。
以上の言葉を簡単且つ雑では御座いますが、暑中見舞いの言葉に変えさせていただきます。

(文/渡部由依子)

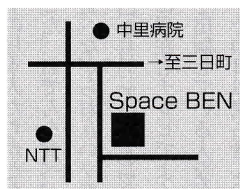
全て午後7時30分～、料金500円

■7日 タイトル未定
作/柏崎真由美

■21日 タイトル未定
作/音喜多由記子

■14日 H. B. E (仮題)
作/中野維人

■28日 Megalomaniacs
作/渡部由依子



駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

モレキュラー・シアター 「GOZO・OPERA :san'nai」公演

ーアラン・ジェフロワ/吉増剛造
ダブルレクチュア「詩のオペラシオン」ー

八戸市を活動拠点としているモレキュラー・シアター。5月には韓国公演があったばかりだが、今度は9月に東京公演が決定した。パリの詩人 Alain Jouffroy を日本に招き、詩人吉増剛造氏とのダブルレクチュアが行われる。

■会場 国際交流フォーラム
問合せ エース・ジャパン
☎ 03-5562-0699
■日時 9月26日(土) 開場午後5時
9月27日(日) 開場午後3時(全2公演)
■主催 モレキュラー・シアター
☎ 0178-45-9247
■入場券問合せ モレキュラー東京オフィス
カンパセーション ☎ 03-3233-1933
フォト・プラネット ☎ 03-5485-0991
■入場料 5,000円(当日5,500円)